

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

令和 7 年 11 月 12 日

岡 山 県

- 1 対象名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou & Lu)
- 2 発生作物名 ミカン、モモ
- 3 特殊報の内容 県内の農地で発生を確認
- 4 初発生確認月日 令和 7 年 10 月 23 日
- 5 発生確認場所 岡山県赤磐市
- 6 発生面積 40a
- 7 発生確認の経過

令和 7 年 10 月、赤磐市のミカンほ場及び隣接するモモほ場において、モモ枝上にハゴロモ類の産卵痕及びチュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫を確認した。採取した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであると判明した。

8 国内での発生状況

国内では 2017 年に大阪府で初めて確認されて以来、関東以西の本州及び九州の各地で発生が報告されている。農地では、2024 年に神奈川県、埼玉県、福岡県及び山梨県で特殊報が発表されて以来、現在までに 21 都府県で発表されている（11 月 7 日現在）。

9 形態

成虫は体長14～16mm程度。前翅は茶褐色～鉄さび色で、前翅前縁中央部に三角形の白斑がある。幼虫は白色で、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げる。産卵痕は白い毛状の蠟物質で覆われる。

10 生態

本種は極めて広食性であり、農作物では、チャ、ナシ、リンゴ、ウメ、モモ、スモモ、オウトウ、ブドウ、カンキツ、カキ、クリ、イチジク、ブルーベリー、オリーブ、キウイフルーツ等への加害が報告されている。国内における年間発生世代数など、生態は不明な点が多い。

11 被害

成虫、幼虫ともに集団で枝を吸汁し、多発生時には排泄物によりすす病を引き起こす。成虫は、枝皮を剥いで産卵するため、枝が損傷し、伸長抑制や枯死を引き起こす。

12 防除対策及び参考事項

- (1) 現時点で、本種に適用登録のある農薬はない。
- (2) 成虫、幼虫は見つけ次第捕殺する。産卵された枝は直ちに摘除し、土中深くへの埋設、または袋に密閉するなど、適切に処分する。
- (3) 本種は広食性のため、農作物だけでなく樹木類にも発生する。庭木等も観察し、寄生を確認した場合には上記のとおり対処する。



図1 成虫の写真



図2 枝上の産卵痕

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

